



2023年4月1日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiyymca.org
 発行人 / 塩澤 達俊
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News



この聖句とともに、この一年間を！

表紙の写真から：さくらんぼ幼稚園卒園式にて。

いつもと違う雰囲気先生に挨拶をする様子です。

新しい2023年度をむかえました。

思いどおりの春をむかえたひと、本意ならずも何とか調整させて前を向いているひと、ちょっと足踏みをしてもう少し準備があるひと、みんなそろって新しい季節を迎えています。

おひとりおひとり、いろいろなときを、いろいろにすごしているとは思いますが、4月になりましたので、新年度のごあいさつをとちぎYMCAから申し上げます。ことしもめぐみの多い、よい年になってゆきますよう！みんなが、神さまにまもられて、あんしんしてすごせますよう！こころより、お祈り申し上げます。

今年の1年間、みんなで向き合ってゆきたい聖書の言葉を年間聖句として選びましたので紹介します。

(くわしいせつめいは総主事コラムの月刊#4月、5月号をぜひみてください。)

「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書 40 章 31 節) と、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書 11 章 28 節) の、2 句がそれです。

ここにある今年のテーマは、疲れたらどうする？どうすると疲れぬ？ということです。こどもだったら、おとなだったら、わたしだったら、あのひとだったら、いまだったら、みらいだったら、みんないろいろなわたしたちだったら…。いろいろなもの見かた、ものごとの考えかたを、自分の中にとりいれて、疲れたらどうする？どうすると疲れぬ？(別の言い方をすれば、そうしたらポジティブ・ウエルビーイングなようすになれるの?) をテーマに考えながら、一步一步みんなの前に進んでゆきたいと思います。

人生にはいろいろなことがつきものですが、今年度も、ぜひ!良い時がお一人お一人の人生にたくさん生まれますように!

とちぎYMCA 総主事 塩澤 達俊
(たっちゃんリーダー)

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2023 年度とちぎYMCA年間聖句

主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書 40 章 31 節)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書 11 章 28 節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「卒園式」

3月15日は卒園式でした。

発表会の後、すぐに卒園式の練習が始まりました。まだ「卒園」のイメージがつかない子どもたち。保育室での練習は、わくわくした様子で取り組んでいました。体育館での練習が始まると、緊張感が高まり真剣に参加する姿が見られました。徐々に卒園の実感が湧いてきて、泣いてしまう子もいました。

卒園式当日は、いつもと違う雰囲気の中で登園してきた年長さん。照れくさそうに保育者や友だちにあいさつをしていました。「このスカートかわいいでしょ!」とか「髪をセットしてきたよ!」と嬉しそうに話していました。

保育証書授与では、一人ひとりが元気に返事をして、園長先生から証書を受け取りました。

歌は気持ちを込めて「きみとぼくのラララ」歌うことができました。練習期間が短かったですが、すぐに歌詞を覚えていました。この歌を聞きながら、一年を振り返っていると自然に涙が出てきました。

幼稚園生活でいろいろな経験をして成長した年長さん。お別れは寂しいですが、新しい門出をお祝いします。ご卒業おめでとうございます。



ようとう保育園 「新採用保育士のご紹介」

こんにちは。齋藤大貴です。私は3月までようとう保育園で休日保育のお手伝いをしていました。幼児クラスのトイレの清掃や廊下や窓の掃除、テラスや下駄箱の掃除、玩具拭きなどの環境整備、午睡から目覚めた子どもたちのお布団をたたむことを手伝ったり、おやつを食べている間に保育室の掃除やおやつ後の片付け等の用務作業をしたり、おやつ後は戸外や室内でお迎えが来るまで一緒に遊んだり、着替えの手伝いをしたりする保育補助と、午後の部をフルサポートしていました。週1回程しか会わない

子どもたちはとても元気で、他園のお友だちと積極的に関わります。一人ひとりが自分のイメージを持って遊んでいて、そのイメージをお友だちと共有しながら遊んだり、自分の言葉で気持ちを伝えながら、ようとう保育園ならではの泥団子を作ったり、中当てやドッジボールのようなボールを使ったあそびを展開するなかで、私は子どもたちと常に本気で関わることを心がけ、子どもたちから子どもなりの遊び方や楽しみ方を教えられることもあり、楽しく働きながら学べる場となっていました。

「子どもが好き」と実感できる大切な時間でもありました。実習から休日保育でお世話になったこの園で4月から新採用保育士として働きます。

これまでの経験で培った明るく笑顔で子どもと遊べる自分に自信を持ち新たなスタートを切りたいと思います!どうぞよろしくをお願いします。



子どもの家だより～ 桜小子どもの家(さくらクラブ) 「子どもたちの成長」



3月になり、子どもたちの姿を見ると、心身ともに大きく成長し、たくましくなりました。連日、縄跳び、ドッジボール、砂遊び等で元気に遊んでいます。縄跳びでは、「数をかぞえてね」と支援員に伝えて記録更新をしようとしていたり、バドミントンのシャトルを上手に打てるようになったり、砂場でトンネルを協力して作れるようになったり、鬼ごっこを全力で走っていたり、ドッジボールも迫力が出てきたり・・・子どもたちの姿はとても輝いています。

2月22日はYMCA ピンクシャツデーでした。「いじめをなくそう、言われたらうれしい言葉」をスローガンにそれぞれのカードに書いて、ピンクシャツの紙に展示しました。「ありがとう」「大好き」「だいじょうぶだよ」など笑顔になれるやさしい言葉が沢山並びました。「ことばの力」は希望につながります。私たち支援員は一人ひとりに寄り添って、子どもたちが「思いやり」の気持ちを持てるよう取り組んでいきたいです。

主任支援員 大橋 光代



「ふじさんぽ開催しました!」

2月25日～26日に1泊2日で「ふじさんぽ」が行われました。参加者は県内各地から16名集まり、スタッフ含めて総勢21名でした。1日目、宿泊する東山荘に到着すると、大きな雨粒のあられが降りました。「富士山では雪になって、明日は新雪の富士山に行けるかも...!」と現地のスタッフが教えてくれました。夜は体育館で「巨大すごろく」を行いました。3チームに分かれ、ミッションをクリアしながら進んでいきます。『みんな競歩で体育館1周!』『1人ずつカートに乗ってみんなで押そう!』子どもはもちろん、大人の皆さんも大笑いしながらすごろくを楽しみました。

2日目、地面は一面真っ白、空は快晴。最高のコンディションです。「早く富士山に行きたい!」とワクワク。富士山に到着すると、まだ誰も踏んでいない真っ白な雪の上をザクザク。現地スタッフ特製のボードを使ったソリ滑りでは「もう1回!」と何度も何度も滑って楽しみました。雪遊びをしたり、散策をしたり、冬の富士山を大満喫しました。帰りのバスでは、さっきまで見ていた大きな富士山が嘘のようにどんどん小さくなり、バスから「また来るね」と手を振りました。無事にプログラムが実施できたことに感謝致します。また、このプログラムを支援してくださるチャリティーラン関係者皆さまに、心より御礼申し上げます。



親と子の居場所 めいめい 「子どもたちの様子」

めいめいはだんだんと利用者が増え、子どもたちや保護者の方が楽しく過ごされています。最近では子どもたちがダンボールを使いダンボールハウスを作成しています。どうしたら屋根がつか、窓や玄関はどこに作るかなど自分たちで考えて作成しています。また、ダンボールハウスの中でゲームをしたり、本を読んだりなど秘密基地のような光景が見られています。学校や学年が違う子たちが最初は距離をとっていましたが、めいめいに何度も来ることで、だんだんと距離が縮まっていき今では一緒に遊び食事を囲むことが増えています。自分のコミュニティ以外と関わるのが最近減ってきている中で様々な年代と関わり一緒に遊んでいる姿はとても楽しそうに温かさを感じられます。

3月3日には、ひな祭りを行いました。子どもたちと一緒にひな壇を作りました。それぞれがおひなさまやおだりさまの顔や着物の絵を描き、一つのひな壇が出来ました。また夕食ではオリジナルちらし寿司を作りました。トッピングを自分の好きなようにアレンジして一つだけのちらし寿司を完成させていました。これからめいめいの様子をお届けしていきたいと思います。



「フードバンクを実施しました!」

1月11日～2月9日宇都宮YMCAと宇都宮東YMCAで行ったフードバンクに今回もたくさんの寄付が集まりました。ご寄付いただきました食品はNPO法人フードバンクうつのみやへ寄付させていただきました。

「NPO法人フードバンクうつのみやホームページより」

埼玉事務所へ持ち込まれた寄付食品がストックされるまでをご紹介します。事務所では、持ち込まれた寄付食品をひとつひとつ確認するエキスパートがいますが、全員ボランティアの方々です。ボランティアのみなさんは、搬入された寄付食品の賞味期限を所定用紙に記入して貼り付け、倉庫スペースの棚に入れていきます。ここからなるべく賞味期限の近い食品を中心に効率よく取り出し、食品が必要な方々にわたっていくこととなります。搬入された食品は検品後、伝票に記入します。賞味期限ごとに所定の棚に入れ込んでいきます。フードバンクうつのみやでは、こうしたボランティアの皆さまの手厚いサポートにより、スムーズな運営が行われています。ぜひフードバンクでの活動に参加してみたい方が多いのでは?ぜひフードバンクでの活動に参加してみたい方が多いのでは?ぜひフードバンクでの活動に参加してみたい方が多いのでは?



とちぎ YMCA 大会2022を開催いたしました!

2023年3月5日(日)、「とちぎYMCA大会2022」が開催されました。とちぎYMCA大会とは、とちぎYMCAに関わる全ての皆さまや、これから関わるあらゆる方々と一緒に、YMCAの働きを通して未来に期待していくための大会です。

今回のテーマは「compass of your heart」。とちぎYMCAのサポーターが「こんなとちぎYMCAにしていきたい!」「こんな地域にしていきたい!」という夢を語り、聴講者の皆さまをはじめ、沢山の皆さまからご意見を頂くことでこの一つひとつの夢を正夢へと近づけていくことを目的に実施しました。ワールドカフェ形式の分科会を用意し、会場には40名を超える方々が集まり生き生きとした議論の場となりました。

今回の分科会は

『①多文化共生社会の実現に向けて (YMCA職員 塩澤より)
世界の離乳食を食べてみよう!』

『②宇都宮東地区ブルーオーシャン計画 (YMCA職員 添田より)
宇都宮東地区の介護をYMCAが担うために』

『③目指せ!とちぎYMCA大学開校 (YMCA職員 川口より)
とちぎYMCAの中に、居場所を求める学生のための学校を開校しよう!』

『④これからの野外教育事業 (YMCA職員 平山より)
すべての子どもたちに野外教育体験を』

『⑤ピンピンコロリのウェルビーイングのある社会に向けて! (YMCA職員 荒井より)
一人ひとりが長生きして、乳児〜終末期までの豊かな人生を送るためにYMCAは何をすべきか考えてみましょう!』

以上5つの分科会において、発表者が参加者の皆さまから夢を実現させるための様々なアイデアやご意見を頂く場面も多く見られました。世の中とちぎYMCAが「よくなっていく」ための機会となりました。

今回の大会の趣旨は会員総会のニュアンスを持ちながらも会員の方だけでなく、とちぎYMCAの各事業所につながる多くの方々にご参加頂けたことでとちぎYMCAの多岐にわたる活動に触れていただけたと感じています。これからもとちぎYMCAは、皆さまとのつながりを大切にしながら歩んでまいります。ご参加いただきありがとうございました。



当日の様子はYouTubeからご覧いただけます。



総主事挨拶



実行委員



YouTube 配信



分科会の様子



キャンドルファイヤー



ユースボランティアリーダーによるアイスブレイク

たかはら子ども未来基金NPOインターシップが終了!



昨年の9月からとちぎコミュニティ基金主催たかはら子ども未来基金学生 NPO インターン生の4名がとちぎYMCAにて活躍し、2月末でインターンシップ期間が終了しました。3月11日(土)にNPOインターシップ報告会があり、これまでの活動の報告をインターン生が発表しました。4名の報告の中で、「子どもたちとの触れ合いを通して、自分自身が成長する大きなきっかけとなった。長期にわたるインターンシップだからこそ、得られた知識、スキルは将来で大いに役に立つのではないかと話していました。淵上さん、伏本さん、毛さん、森田さん、これまでのお支えに感謝を申し上げます。

このインターンシッププロジェクトは、昨年の9月~今年の2月までの期間、県内のNPOで学生がインターン生として活動し、地域の課題解決のソーシャルアクションを行い、県内のユースを育成するプロジェクトです。とちぎYMCAでは、「YMCA Future Engineer」というプログラムを中心に、Amazonのプログラミング教材を使って、子どもたちにテクノロジーを通じた体験の機会を増やすミッションを担い、企画準備から当日運営までのプロセスをインターン生が担っていただきました。今後とちぎYMCAがユース・エンパワーメントのプラットフォームとなり、社会へのインパクトを創り出せるよう努力して参ります。
インターンシップ担当 荒井 浩元



クラウドファンディングに挑戦中!



目標金額 **400**万円 2023年**4月18**日(火)まで

2月中旬より ICEP プログラムを通じて、アメリカの学生の受け入れ施設予定の空き家の改修工事を目指すためのクラウドファンディングのプロジェクトについてご支援をお願いできればと存じます。すでにご支援をいただいた皆様、誠にありがとうございます。現在皆様からのあたたかいご協力により、目標金額 400 万円に対し、289,000 円 (7%) のご支援をいただいております。(3月15日現在)

しかしプロジェクト終了まで残り数週間、目標達成のためには皆様からのご支援が必要な状況です。10年以上続くこのプログラムも、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年から受け入れを休止していましたが、2023年度からの再開に目処が立ちました。休止していた期間で、今まで使用していた施設が利用できなくなってしまい、現在受け入れ場所の確保が難しい状況です。そこで、学校法人宇都宮YMCA 学園認定こども園さくらんぼ幼稚園の隣の建物を改修し、毎年同じ場所での受け入れも可能な施設とすることで、再開の目処を立てたいと思っております。

今回の挑戦は All or Nothing 方式での挑戦のため、目標金額に1円でも届かなかった場合、集まったご支援金を受け取ることができない覚悟の挑戦です。誰もが安心して使うことのできる居場所のために、皆さまの温かいご寄付とご協力をお願いします。

海外の学生の受け入れ拠点を作り、多文化共生の発信基地を作りたい!

▼ご支援・詳細はこちら (支援募集は4月18日(火)まで)
https://readyfor.jp/projects/tochigi_ymca



※本プロジェクトは All or Nothing 方式のため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。

とちぎ YMCA レディーフォー

月刊# (ハッシュタグ)



第23回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総主事
塩澤 達俊

#とちぎYMCA 年間聖句#リンゴ・スター#ジョージ・ハリスン#スポ根 (今月は70年代音楽雑誌インタビュー記事風にしてみました)

リンゴ: とちぎYMCA 年間聖句を決めたんだね。
たっちゃん: そうだよ! 一年間この聖句と向き合ってみて進んで行きたいんだ。
ジョージ: その聖句を聞かせてよ。
たっちゃん: 「主に望みをおく人は新たな力を得、驚のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」(イザヤ書 40章 31節) と、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書 11章 28節)

この2か所さ!

リンゴ&ジョージ: !!!??? 2か所の聖句???

たっちゃん: Yes! 聖書の言葉はまったく別の文脈から取り出して並べても、受け取る人の心の中で新しいメッセージとして与えられることがあるんだよ。

リンゴ: どういうこと?

たっちゃん: 2つの聖句の「疲れる」というコトバに注目してみて。
ジョージ: 確かにこのごろコロナや戦争や「疲れる」ことがたくさんあったね。
たっちゃん: そう。ボクたちの毎日は普通に暮らしたり、感じたり、愛したりしてても「疲れる」ことがあるのは当たりまえ。疲れない人なんていないからね。
リンゴ: でも今年度の聖句では「走っても、歩いても、疲れない」と無茶言ってるよ!
たっちゃん: そうだね。そのくせ「疲れたひとは、だれでも休ませてあげよう」なんて言ってる。混乱するよね。でも、ここがポイントさ^^
ジョージ: 「疲れる」のは当たり前だけど「疲れない」でいることもできる?
たっちゃん: そうさ! 驚という鳥は空高く舞うことが出来るけど、上昇気流をとらえて昇るのでたくさんの力を必要としないんだ。ボクたちも、夢や希望をもって生きるとき、心の中に新しい力が湧いて前に進めるようなエネルギーと気持と自信があふれるだろ?

リンゴ: でも気持ちだけのスポ根や精神論では実際上手くないかいヨ!

たっちゃん: その通り! 実際「疲れる」よね。でも、これ見てみて。

(以下、次月の月刊#につづく)



高校生ボランティアグループ「つぼみ」 つぼみ通信 vol.1



2022 年度を振り返って



こんにちは! 私たちは、とちぎYMCA 高校生ボランティアグループ「つぼみ」です。私たちつぼみはSDGsを活動に関連付けて子どもの貧困や国際問題、その他にも様々な活動に取り組んでいます。2022年度特に力を入れて取り組んだことは、

「子どもの貧困」についてのアクションです。月に1回実施した子ども食堂「つぼみ食堂」は私たちにとって最も思い出深いものでした。県内のNPO団体が協同で開催した「サンタdeラン」への参加をきっかけに、子どもの貧困課題解決のための新たなプログラムとして自分たちの手で運営することを決めたつぼみ食堂が発足したのが約1年前。回を重ねるごとに利用者の方も増え、私たちの取り組みが地域の方へ届いていることを実感し、嬉しく思いました。

さて、つぼみ食堂の基盤を作った先輩方は卒業され、2023年度の新たな体制がスタート致しました。「やる気があればだれでも出来る!」を合言葉に私たちの挑戦はこれからも続きます。